

# 大学における「英語教育活動」に関する現状調査

〈教務担当者用〉

## 報 告 書

### 調査実施概要

1. 調査実施機関

(財)日本生涯学習総合研究所

2. 調査テーマ

大学における「英語教育活動」に関する調査

3. 調査対象

大学の教務担当者

4. 調査時期

平成18年11月 ~ 12月

5. 回収数

有効回収数 330大学

国 立	公 立	私 立	合 計
41	42	247	330

6. 調査方法

送付・回収とも郵送によるアンケート調査

## ． 新入生に対する英語教育について

### 1) 入学予定者に対する英語の入学前教育の実施状況

入学前の英語教育の実施状況は「実施していない」が「実施している」を大きく上回った。

実施している	26%
実施していない	72%
その他	2%

### 2) 入学前教育の対象者

1)で「実施している」と回答した大学の、入学前英語教育の対象者については、推薦入試やAO入試の合格者を対象に実施する大学が多く、早期に合格が決まった内定者を対象に実施していることがわかる。また特定の学部・学科の入学者については、語学力を必要とする英米語専攻や国際関係が中心となっている。

推薦入試の入学予定者	34%
AO入試の入学予定者	7%
推薦・AO入試の入学予定者	37%
特定の学部・学科の入学予定者	12%
入学予定者全員	2%
その他	10%

### 3) 英語授業におけるクラス分け(能力別または習熟度別)の実施状況

入学後の英語教育において、能力別・習熟度別によるクラス分けを「実施している」大学は、「実施していない」の2倍近くあり、英語の能力別・習熟度別のクラス分けが一般化していることがわかる。

その他の回答として平成19年度入学者から実施というのが数大学あり、この傾向が強まることを予想させる。

実施している	64%
実施していない	34%
その他	2%

#### 4) クラス分けの判定材料として使用している試験

3)で「実施している」と回答した大学のクラス分けの判定材料としては、大学独自のテストが45%で最も多いが、TOEICをはじめ様々な外部テストを利用している例をすべて合計すると50%となり、独自テストを上回る。

センター試験を外部テストとしてとらえれば54%を半数を超える大学が外部テストによって学生の英語力を判定していることがわかる。

(複数回答)

TOEIC	16%
TOEIC Bridge	6%
TOEFL	5%
英検	2%
GTEC	0%
学内で作成したオリジナルテスト	45%
業者のプレースメントテスト	21%
センター試験など入試の得点	4%
その他	15%

#### 5) 入学後のリメディアル教育(補習教育)の実施状況

入学後に英語のリメディアル教育を実施しているのは入学前教育よりは若干低くなっている。「実施していない」大学は全体の4分の3以上を占める。

ただし、「実施していない」と回答した大学の中で、英語の授業で習熟度別クラスを採用していれば、その初級レベルのクラスではリメディアル教育が行われているケースがあるかもしれない。

実施している	20%
実施していない	76%
その他	4%

## 6) リメディアル教育の指導者

5)で「実施している」と回答した大学の指導者については、非常勤講師を含めた学内の教員が指導しているという回答が圧倒的に多く、外部の教育機関を利用しているのはわずかであった。

(複数回答)

本学の教員が指導している	82%
非常勤の講師が指導している	29%
外部の講師に依頼している	6%
その他	9%

## 7) リメディアル教育の単位認定状況

5)で「実施している」と回答した大学で、リメディアル教育に対する「単位認定を行っている」大学は約4割であった。本来なら高校卒業時までに備えていなければならない学力を大学入学後に養成し、しかも単位認定するのは、リメディアル教育が大学教育の中で大きな要素となっていることを意味するものと思われる。

単位認定を行っている	39%
単位認定を行っていない	50%
その他	11%

## 8) 入試において優遇している英語関連の資格試験

入試において、学科試験免除や点数加算などの優遇制度がある大学の中で、優遇している英語関連の資格試験として最も多いのは英検で、優遇制度のある大学の84%で採用している。以下TOEIC60%、TOEFL50%と続く。

(複数回答)

TOEIC	60%
TOEIC Bridge	9%
TOEFL	50%
英検	84%
GTEC	9%
その他	16%

・ 英語関連の試験の実施状況について

1) 学内における英語関連試験の実施または受験奨励の状況

英語関連の資格試験を「大学(または学部・学科)として実施している」と回答した大学は半数を超えており、「教員レベルで判断して実施している」を加えれば6割以上の大学がなんらかの英語関連の資格試験を学内で実施している。一方、「大学(または学部・学科)及び教員レベルでの実施・奨励は行っていない」との回答は2割以下で、大学側の学生の英語学力向上とその測定に積極的な様子が見えてくる。

(複数回答)

大学(または学部・学科)として実施している	54%
大学(または学部・学科)として受験を奨励している	25%
教員レベルで判断して実施している	10%
教員レベルで判断して受験を奨励している	15%
大学(または学部・学科)及び教員レベルでの実施・奨励は行っていない	18%
その他	2%

2) 英語関連試験の実施形態

1)で と の「実施している」と回答した大学の学内での試験実施取り組み方法については、各試験によって利用方法が異なっていることがわかる。選択肢にあげられた TOEIC、TOEIC Bridge、TOEFL、英検、ともに「卒業までに希望者のみ受験する」という回答が最多を占めた。

( 数値の見方は、各資格試験ごとに ~ (縦列)の比較のみ有効)

(複数回答)

	TOEIC	Bridge	TOEFL	英検
入学時に一部の学部・学科の新入生全員が受験する	13%	13%	11%	3%
入学時に全学の新入生全員が受験する	11%	19%	13%	3%
入学時に新入生の希望者のみ受験する	1%	3%	0%	25.0%
卒業までに一部の学部・学科の学生は全員が受験する	25%	26%	24%	9%
卒業までに全学の学生が受験する	11%	3%	17%	6%
卒業までに希望者のみ受験する	56%	48%	67%	94%

### 3) 英語関連試験の主な実施理由

英語関連試験を実施する理由について TOEIC、TOEIC Bridge、TOEFL、英検のそれぞれの試験ごとに 17 の選択肢を設定して回答を求めた。TOEIC、英検は、「学生の英語力の向上のため」、TOEIC Bridge は「学生個々の英語力の現状を把握するため」、TOEFL は「留学の条件、または留学に有利なため」が最も多かった。

( 数値の見方は、各資格試験ごとに ~ (縦列)の比較のみ有効) (複数回答)

	TOEIC	Bridge	TOEFL	英検
試験内容が学生のニーズと一致している	21%	16%	26%	28%
学生の英語力向上のため	75%	52%	67%	94%
学生の学習意欲を向上させるため	70%	52%	54%	69%
学生個々の英語力の現状を把握するため	60%	68%	63%	28%
学力の伸びや、学習効果を測定するため	56%	55%	52%	44%
プレースメントテストとして利用するため	21%	45%	26%	6%
全学または一部の学部・学科で受験・取得を目標としているため	25%	6%	15%	28%
企業のニーズに対応するため	39%	10%	4%	19%
就職に有利であるため	54%	13%	6%	47%
就職における学校推薦の基準であるため	2%	0%	2%	0%
留学の条件、または留学に有利なため	16%	3%	80%	9%
国際社会に対応するため	37%	10%	30%	34%
試験の結果がわかりやすいため	15%	0%	9%	9%
試験の実施回数・時期が丁度よいため	7%	0%	2%	6%
特定の履修科目において履修条件であるため	21%	19%	13%	9%
特定の履修科目が免除になる制度があるため	14%	6%	20%	22%
大学院受験の評価基準であるため	3%	0%	9%	3%

#### 4) 英語関連試験の受験対策指導の実施状況

試験の実施または奨励の有無を問わず、受験対策指導の実施の有無についての回答は、TOEICだけが受験対策を「実施している」が「実施していない」を上回ったが、他の試験は「実施していない」が「実施している」を上回った。

	TOEIC	Bridge	TOEFL	英検
実施している	52%	5%	16%	14%
実施していない	39%	41%	41%	42%

#### 5) 英語関連試験の受験対策指導の受講対象者

4)で「実施している」と回答した大学の資格試験の受験対策の対象者については、TOEIC、TOEFL、英検で「受験者の中で希望者のみを対象」とする大学が、「受験者全員が対象」とする大学を大きく上回っているが、TOEIC Bridge は「受験者全員が対象」の大学が上回り逆の結果が出ている。

(数値の見方は、各資格試験ごとに、(縦列)の比較のみ有効)

	TOEIC	Bridge	TOEFL	英検
受験者全員が対象	28%	62%	13%	21%
受験者の中で希望者のみを対象	58%	25%	72%	72%
その他	14%	13%	15%	7%

#### 6) 英語関連試験の受験対策の指導者

4)で「実施している」と回答した大学の資格試験の受験対策指導者は、いずれも大学の教員が担当している例が最も多く、次いで非常勤講師、外部の教育機関の順であった。

(数値の見方は、各資格試験ごとに、(縦列)の比較のみ有効) (複数回答)

	TOEIC	Bridge	TOEFL	英検
本学の教員が指導している	75%	100.0%	64%	81%
非常勤講師が指導している	49%	69%	43%	25%
外部の教育機関に依頼している	15%	0%	16%	6%